

2016年12月22日

第12号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

ふくしまの復興と原発ゼロをめざす大運動

新署名と意見広告を軸に、立地県でキャラバン

福井 30人で集会、福井県に要請、福井駅前で宣伝

～福島切り捨ての実態を共有して、新署名と意見広告成功を



12月6日、福井県教育センターで「福井県集会」が開催されました。集会ではふくしま復興共同センター事務局次長の藤倉英一さんが「原発事故から5年9ヶ月の福島の現状と課題」と題して講演。

はじめに、先日11月22日の地震で、福島第2原発での使用済み核燃料プールでの冷却機能の一時停止について、県などへの報告が遅れたことに触れ、「東電の体質は依然変わっていない、原発事故の真の原因が地震にあったことにつながる事故だったので意図的に報告

を遅らせたものだ」と批判しました。「廃炉が決まっている第一原発だが、廃炉への過程3段階のうちの、第一段階『燃料取りだし』だけみても、計画通りに進む見通しは全くない」と現状を告発しました。「福島では、現在も8万人をこえる人が県内外に避難を続けているが、今年2月に行われた国勢調査では、双葉、大熊、富岡、浪江4町が人口ゼロとなり、国勢調査の歴史上も初めての異常事態だ。更に、営業状態が事故前の70%程度に止まっている状態、なのに、『営業損害賠償』を打ち切り、『将来分を含んで、2倍払う』とした昨年の合意も一方的に実行していない、住宅借り上げの補助の打ち切りで避難している人たちの住居がなくなる」など、福島切り捨ての実態が細かく報告されました。最後に「福島の実態からみれば当然に原発再稼働反対・原発ゼロになる、そのことを『大運動』の展開によって全国に広めて、政治を変えていく力にしたい、100万署名はその運動の柱であり、必ず成功したいし、させて欲しい」と強調されました。

福井民医連からは10月に2泊3日で行った福島視察「つながるプロジェクト・ふくしまー福井 2016」での福島の実状を体験した報告や、県連絡会からは、8月に行われた広域避難訓練が「住民の安全は二の次、住民を置き去りにしたものだった、安定ヨウ素剤の配布や飲み方の指導も実際を踏まえたものになっていなかった、今後ヨウ素剤の事前配布をすべての市町に働きかける運動を展開する」などと報告されました。



署名 29 人分、17 個人 2 団体から意見広告賛同金

翌日、7日は、JR 福井駅前まで早朝宣伝を行いました。今年一番の冷え込みで手がかじかむところ、ふくしま復興共同センター・藤倉さんからの訴えと横断幕を掲げてのスタンディング、チラシ配布を行いました。参加は、10人、チラシは250枚の配布でした。



続いて、7日9時半から福井県庁を訪問し、原子力安全対策課・山田参事、危機対策・防災課・加藤参事が応対。福島現状を丁寧に説明し、「福島切り捨て政治を許さない」との意思表示を行って欲しい」また、「福島現状を知れば知るほど原発再稼働の推進とはならない、知事の姿勢もあるが、福島と並んで原発の多い福井県で、原発政策に関わる職員は、みんな福島に行って、現状を『知る』企画も是非やって欲しい」と申し入れ・懇談を行いました。

島根 原発立地県全国キャラバン行動が12月17日松江入り！

「ふくしまの復興と原発ゼロをめざす大運動」の原発立地県キャラバンが12月17日島根原発から10kmの松江市に入りました。この行動は、原発をなくす全国連絡会と、ふくしま復興共同センターの提起を受け、全国14立地県で順次行われているものです。当日は、ふくしま復興共同センター代表の斎藤富春さんが来県、原発ゼロをめざす島根の会や島根原発・エネルギー問題県民連絡会と一緒に、昼のJR松江駅前での街頭署名・宣伝行動、松江生協病院大研修室での集会を行いました。集会で斎藤さんは、福島現状



について、4町で人口ゼロ8万人超の県民が避難生活、仮設住宅の孤独死、一方的な避難指示の解除と賠償や支援打ち切りなど「福島県民切り捨て政治」の深刻な実態を告発しました。そして、「原発ゼロの必要性を、福島の実況が示している」と強調し、島根原発再稼働反対署名運動の地域からの前進と、政府に向けた全国からの「100万人署名」運動の取り組みの共同を呼びかけました。

